

ベラルーシ公開情報取りまとめ
(10月15日～10月21日)

2019年10月23日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、クィヴァシェフ・露スヴェルドロフスク州知事と会談(10/21)

●ルカシェンコ大統領、ニキーチン・露ノブゴロド州知事と会談(10/17)

●ダブキユナス・ベラルーシ外務次官、徳永特命全権大使と会談(10/16)

大統領動静

●クィヴァシェフ・露スヴェルドロフスク州知事と会談
(10/21)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・以前エカテリンブルクに訪問したが、とても気に入った。強い街である。大雪であった。強い人々が住んでいる。スヴェルドロフスク州は、距離は離れているが、ベラルーシのパートナーである。

・ベラルーシで使用されているタービンの60%はウラル地方で製造されたものである。産業協力において機械製造業は有望な分野である。ベルコムマシュ社はロシアにおける路面電車近代化事業に参画できる。

・ベラルーシは、スヴェルドロフスク州において農業、自動車、道路建設、情報通信等の技術の提供に参画する用意がある。

・特に、乗用車道、橋、ゴミ処理工場等の建設において、ベラルーシのエンジニアサービスの活用を提案する。スヴェルドロフスク州は、建設需要の大きな都市の一つであり、2023年に夏季ユニバーシアードを控えており、建設は喫緊の課題であろう。ベラルーシは、欧州競技大会やEU・米国競技大会の受け入れ経験がある。

・数年のうちに、2012年に打ち出されたベラルーシ・スヴェルドロフスク州間の貿易額6億ドルを超えていくだろう。

(10/21 大統領府公式ホームページ)

●ニキーチン・露ノブゴロド州知事と会談(10/17)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・このような訪問はベラルーシを知るため、経済、製

造のポテンシャルを評価するための良い機会である。

・ノブゴロド州は、ベラルーシにとって最も近いロシア連邦の州の一つである。ベラルーシはノブゴロド州で工業製品部品や化学品、材木、陶磁器を仕入れている。ベラルーシは、農業製品、機械製造、建設サービス等を提案する用意がある。特に、ノブゴロド州における建設案件へのベラルーシ企業の参加に関するニキーチン氏の協力を期待する。また、ミンスクトラクター工場やミンスク自動車工場へ訪問して頂き、ソ連時代の巨大企業が市場経済の中でも機能していることを確認してもらいたい。

・ベラルーシは伝統的にロシアの地方都市との協力を注目している。我々のロシアの地方首長との交流を警戒している人々もモスクワにいるが、ここには何ら陰謀はない。ロシアは「彼ら」のものだと思っている人がロシアに居るとしたら、それは間違いであり、ロシアは「我々」のものである。ロシアは一つの国というより、イデオロギーである。ベラルーシをロシアに背を向けた敵であるかのように見ないで欲しい。我々は、ロシアにとって重要な戦略的パートナーである。全ての問題は解決される。

・西側は我々に特に期待していない。障壁となっているのは、独裁者であるルカシェンコではなく、経済である。ベラルーシでは、EUで製造されるものと同様のものを製造できる。そのため、ベラルーシをEU市場に参加させてこなかったし、今後も参加させないのである。私はこの点をずっと非難してきた。EUとの協力の基礎とはどういったものであろうか。

・ロシアの地方都市との協力が、ロシア・ベラルーシ二国間の関係維持を可能とする。ロシアの中央政府

からベラルーシに対しガスや石油の供給制限が課された困難な時期もあったが、地域のお陰で関係維持ができた。

(10/17 大統領府公式ホームページ)

外交

●マケイ外務大臣、ラブロフ露外務大臣と電話会談(10/17)

両者はベラルーシとロシア両国関係における焦眉の課題と緊張状態にある地域の状況に関し協議した。

(10/17 外務省公式ホームページ)

●ダブキユナス・ベラルーシ外務次官、徳永特命全権大使と会談(10/16)

両者は、経済・貿易分野における二国間協力に関し協議を行い、主に製造業や情報ICT産業における有望な取り組みについて言及した。さらに、ベラルーシ・日本政府間のハイレベルな交流の密度が高まっていることの重要性を指摘し、同交流のさらなる前進に向け結束していくことを合意した。外務省間の定期交流、国際機関における建設的な相互協力の必要性につき強調し、両国省庁間の相互協力の道のりにつき議論を行った。

(10/16 外務省公式ホームページ)

●ダブキユナス・ベラルーシ外務次官、アントニオ・ミシロリNATO事務局次長の会談(10/16)

両者は、ベラルーシとNATOの段階的な関係改善を指摘し、ベラルーシとNATO参加国の多様な分野における協力発展の協議を行った。ダブキユナス外務次官は、ミシロリ次長へ9月3日～4日にミンスクで開催された対テロリズムに関連する国際フォーラムの結果の報告を行い、ベラルーシはNATOとの建設的な対話、相互協力に向けた用意があると述べた。

(10/16 ベラパン通信)

●クラフチェンコ外務次官、コリエン・ユンカー欧州安全保障協力機構(OSCE)民主制度・人権事務所(ODIHR)ODIHR議会選挙監視局長と会談

OSCEは、ユンカー局長を筆頭に、11名の専門家、30名の長期監視人がミンスクに訪問した、と発表した。また各国に対し、400名の短期監視人の提供を要請していると公表した。

(10/15 ベラパン通信)

経済

【対外経済】

●世銀、2019年内にベラルーシへ約2億7千万ユーロの追加投資予定。

現在までの世銀の2019年ベラルーシに対する総投資額は約7億6千万ユーロである。2019年中に、学校近代化案件、水道・排水近代化案件、エネルギー使用の拡大に関する案件等、総額2億7千万ユーロを追加投資する予定。

(10/19 ベラパン通信)

【国内経済】

●ベラルーシ政府、2020年GDP成長率予測を2.5%から2.8%へ引き上げ。

(10/18 ベラパン通信)

●2019年1月～9月ベラルーシ国内工業生産高、昨年同時期対比0.7%増加。

分野別の工業生産高成長率は以下の通り。

鉱山分野:0.6%

加工分野:0.8%

資源インフラ分野(電力、ガス、蒸気):0.1%

環境(水、汚染物加工処理):1.5%

(10/18 ベラパン通信)

●ベラルーシ2019年1～9月のGDP成長率、昨年同期対比1%に留まる。

(10/16 ベラパン通信)

●国内農産物生産高2019年1月～9月、昨年同期対比、1.2%増

2019年1月～9月のベラルーシ国内農産物生産高は152億ルーブルであった。

(10/15 ベラパン通信)

●IMF、2019年、2020年のベラルーシ経済予測を下方修正。

IMFは10月15日に、World Economic Outlook を更新した。4月時点でのIMFの2019年ベラルーシ経済成長率予測は1.8%であったが、今回の更新により1.5%と下方修正となった。また2020年の同予測は、4月時点で2.2%であったのが、0.3%となった。

(10/15 ベラパン通信)

治安・軍事

●ラフコフ国防大臣、第9回北京香山安全保障フォーラム参加のため中国訪問

同フォーラムは4日の日程であり、ラフコフ国防大臣は「軍拡に対する国際的な管理システムと国際安全保障ーベラルーシの視点」という題で発表予定である。魏鳳和中国国防部部长との会談も予定されている。

(10/20 ベラパン通信)

(了)